

全仏

ZENBUTSU



468

仏暦2544年 5月（2001年）
財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



マヤ堂遺跡の近影（2001, 2, 18）白川淳敬師撮影

仏教とマルチメディア研究会主催セミナー
教化セミナー「いま、仏教と医療を考える」（後編）

第四回

ルンビニー委員会

平成十二年度第四回ルンビニー委員会が三月十二日、明照会館会議室にて開催された。青地敬水ルンビニー委員会委員長が急な所方で欠席のため、本間孝康副委員長が座長となり、十五名のルンビニー委員会委員と建築家熊谷義信氏、事務総長以下事務局員五名の出席をえて、午後二時開会された。

櫻井英幸国際文化部長より、過日二月七日にカトマンズにて開催された、ルンビニー開発トラスト（LDT）とのマヤ堂修復折衝のための運営委員会での概要と資料の説明がなされた。

マヤ堂事業推進のため、前向きに望んだ運営委員会において、LDT側より出された要望に対し、本会理事会において積極的な検討をしていくことを確認したことが報告された。LDT側の本会に対する要望である、マヤ堂の設計・管理・監督・施工（木骨とキャンバスによる特殊建造物）、完成後の維持管理協力、遺跡保存工事等への全面的な資金援助と早期着工に應えるためには、さらに多額の資

金が必要になるとの予想についても説明がなされた。

また、建築家熊谷義信氏より、ユネスコの勧告をふまえて作成した特殊建造物の設計案と仕様等についての詳細な説明もなされた。さらに、西村輝成事務総長からも、マヤ堂事業完遂のためには、これからもご宗派はじめ全国の各ご寺院に一層のご協力をお願いしたいとの依頼がなされた。

各委員諸師より種々の質疑や意見が出され、討議が行われた後、副委員長本間孝康座長より、本日の案件をそれぞれ委員諸師が持ち帰り審議していただき、四月下旬に開催予定の次回ルンビニー委員会にて再度検討を加えたいとの決議が述べられ、午後四時閉会した。

戒名(法名)リーフレット作成委員会

第四回戒名(法名)リーフレット作成委員会が、三月十六日午後二時より、明照会館会議室で開催された。文責者の記載方法、レイアウトの詳細、前書き・後書きの担当者、文体の統一などについて、細部にわたり検討が行われた。

全日本仏教会 無料法律相談室

全日本仏教会では、長谷川正浩弁護士による、本会関係者を対象とした無料法律相談室を開設しています。

相談内容は、寺院運営をめぐる諸問題、税務、一般民事等、ご自由ですが、現在、宗教法人法の改定に伴い、相談件数が増えています。相談をご希望される方は、必ず電話で予約をお願いいたします。

日時 原則として毎月第二・第四木曜日

午後一時～

場所 明照会館

(東京都港区芝公園四一七四)

予約 全日本仏教会事務局

〇三―三四三七―九二七五

仏教とマルチメディア研究会主催公開セミナー 最先端マルチメディアの動向と仏教界究極のマルチメディア

三月二十七日 於リーガロイヤルホテル京都

三月二十七日、リーガロイヤルホテル京都を会場に、仏教とマルチメディア研究会主催



午後二時半から開催されたシンポジウム

による公開セミナーが開催された。

第三回となる今回は、小栗宏次愛知県立大学教授の「マルチメディアの最新情報と今後の動向」をテーマとした基調講演（次ページ以下内容紹介）と、全仏関係者および（株）博報堂のマルチメディア担当者をパネリストに迎え、「マルチメディア有効活用事例紹介



→ 教化・広報
資料展示コ
ーナー



← マルチメディア
なんでも
相談コーナー

と今後の動向」をテーマとしたシンポジウム（次号で紹介予定）、同時に、関連団体と協賛会社によるマルチメディア相談コーナーが開設された。

また、本会加盟団体提供の教化資料や広報資料の展示、またBSデジタル放送の実演など、先端技術も多数紹介され、参加者の関心を集めていた。

当日は加盟団体関係者以外に、一般参加者、報道関係者も多数会場を訪れ、マルチメディアの進展と仏教界での活用について、様々な立場から理解を深めていた。

協賛団体・会社（順不同・敬称略）

- ・ 天台宗典編纂所
- ・ (財) 禅文化研究所
- ・ 大蔵経テキストデータベース研究会
- ・ BSデジタル放送推進協会
- ・ NHK京都放送局
- ・ (株) NTT・IME (関西)
- ・ 京都リコー (株)
- ・ (株) 三菱電機ビジネスシステム
- ・ アルファインターネット
- ・ 日本テンプルヴァン (株)
- ・ (株) 寿企画
- ・ 大東工業 (株)
- ・ (株) ピーシーエー

教化セミナー「いま、仏教と医療を考える」(後編) ビハラーによるケアと仏教者の課題

飯田女子短期大学教授 田宮 仁

前号に引き続き、昨年十二月四日、本願寺築地別院で開催された表記セミナーより、田宮仁飯田女子短期大学教授の講演要旨を掲載する。

(文責 社会部)

一、ビハラーとは

ターミナルケアの必要とともに、仏教ホスピスという言葉が使われてきたが「ホスピス」はキリスト教と密接な関係があることから、仏教に相応しいサンスクリットで休養の場、寺院に当たる「ビハラー」を提唱した。

二、ビハラーの理念と基本姿勢

ビハラーを提唱するにあたり、三つの理念と一つの基本姿勢を併せて提言した。

① 限りある命の、その限りの短さを知らされた人が、静かに自身を見つめ、また見守られる場である。

② 利用者本人の願いを軸に看取りと医療が行われる場である。そのために十分な医療行為が可能な医療機関に直結している必要がある。

③ 願われた生命の尊さに気付かされた人が集う仏教を基礎とした小さな共同体である。(た

だし利用者本人やその家族がいかなる信仰を持たれていても自由である)

④ ビハラーの基本姿勢

全日本仏教会と同じように一宗一派に偏らない超宗派の活動である、特定の宗派の布教活動ではなく、ビハラーに関心をもった人が一人でも参加できるものである。

ビハラーの語源を辿れば、寺院と病院と学校の三つの機能をも表す言葉であり、これらが三位一体となることを願った。

三、ビハラー病棟のあらまし

二十年前、ターミナルケアにはキリスト教関係者が多く、仏教関係者が何を語るかという雰囲気、屈辱的な経験もした。そこで、まず実践をと考えて① 臨床の場の創設、② ケアの内容、③ 人材の養成、④ 広報活動を同時進行させた。

兄が経営する長岡西病院の最上階にビハラー病棟を設けた。(ベッド数二十程で半分個室、家庭の様に玄関、台所、茶の間、付添いの宿泊設備、風呂、雪国のためサンルーム等を用意) 患者が静かな時を過せることを第一

とし、外出も入浴も可能とした。出入口に釈尊誕生図を掲げ、釈迦像を安置、ビハラー僧が常駐し毎朝夕の勤行(他に彼岸・涅槃会や座禅会等)を行い、一般病棟、外来にも開放した。

四、ビハラーによるケアとは

施設だけでなく医療にも工夫し、現代医療に仏教の智慧や方法論を生かす事を考えた。

病院関係者と仏教教典等の輪読を行い問題解決の糸口を得た。最も注目したのは「何をしないでおくかを見極めること」である。臨床

の場では、何かしない事は勇気がいり難しいが、その人らしさを大事にするには必要なのだ。マニユアル化も困難だ。患者毎に何が必要で何かをしないでおくかに習熟し、経験を積み、その判断が出来るのだが、戦後は科学的な理解に偏ったため難しい。例えばビハラー僧と患者間の会話「何の花が好きか」「山吹の花」。彼の僧は「七重八重花は咲けども山吹のみの一つだに無きぞ悲しき」と応じ、患者は涙を浮かべる。「この身ひとつ自分分

どうにも出来ない」「あなたの望むことが十分出来なくて申し訳ない」。この様な解り方は贅沢になったが、私の願いはここにある。

五、仏教と医療の関わりの経緯

仏教が伝来した当初、僧侶は教えを説くと同等に、仏教福祉・救済活動を展開した。四



田宮 仁 氏

天王寺には施薬院等が開かれた。医療と仏教は元々は同じ根で繋がっていた。唐招提寺の鑑真和尚も医療に造詣が深く師の漢方の処方箋も現存している。鎌倉の忍性開基の極楽寺は一大医療福祉施設でもあった。従軍僧も平安時代末頃から居た。天台宗や浄土宗を中心にした臨終行事の屏風に描かれた阿弥陀様と五色の糸で逝く人と結び送った智慧は素晴らしい。現代に通じる経験に基づいた看病書もある。この様な場に善知識といわれる仏教者が立ち会っていた事を、一般の人たちは忘れてる。

六、医療における仏教者の役割とは

医療における仏教者の役割は、役割りの一部であって目的ではない。むしろ仏教者自身の役割を、まず考えるべきではないか。

今、大学での僧侶の養成課程には布教学が殆どない。キリスト教では多くの時間をかけていると聞く、伝える事は重要であって方法論を訓練する場もなければ使命感が薄らぐ。

政教分離と信教の自由がよいように使い分けられ、区凌と宗教が分離されている。加減である。患者に信教の自由があり、病院が宗教色を持つと叩かれる不思議な状況だ。台湾や韓国では、国を代表する国立大学の医学部の付属病院にも僧侶がいて礼拝施設がある。これを広報し改善する事が急務ではないか。(僧侶による)直接の介護よりも、医療の場に僧侶を呼び、自分のベッドの中で念仏を唱えても良いことを知って頂くことや、医療関係者にもその環境を要求することだ。

仏教者ならではのこと、それは「聞く」ことである。ビハラ病棟で問題を起すのは、法を説く僧侶である。医師や看護師等と話し合う機会を持ち信頼を得て、仏教者がパートナーとして医療関係者から相談される様になって頂きたいが、医療に組み込まれてはいけない。仏教者は善意でも、医療側は役割分担の考えが強い。これを打破し、仏教の中に医療を包み込む様にして欲しい。

それには教育に行き着く。台湾の医大、看護大生の中には「仏教徒だからこの道を選んだ」と自然な言葉で返す人がいた。こうした土壌が必要だ。ビハラ病棟創設時には、直接働く人材養成が問題だった。自然に手が合わされる人が欲しい。そこでいま関わっている看護教育の場合では帯帽式を仏教教典の言

葉を入れた誓いの言葉を用意して「発願式」として行っている。また授業には入棺体験をさせている。患者は、否応なしに其処に近づいているのだから。

宮沢賢治は熱心な法華経信者だった。「アメリモマケズ」の中に「あらゆることを自分をカンジョウウに入れずによく見聞きし解りそして忘れず」とある。これが出来たら医療者も僧侶もすごい存在だろう。「南に死にそうなる人あれば行って怖がらなくてもいいと言え」。患者周辺の独特の状況の中で、病人に怖がらなくていいと自然に言えるか。その一言を聞きたいがために、僧侶を呼んでもいいと伝えていくことの方が重要なことだ。

戦後、宗教教育や躰を、無節操に放棄したつけが回ってきている。医療や教育機関と真に話し合う時がきている。患者から求められる様な僧侶として、袈裟衣で病院に行つて何故悪いかの気構えで向かつて欲しい。

七、おわりに

医療の範疇で、仏教や仏教者の役割を考えるのではなく、仏教側の責任において仏教者は何をすべきかを考えることである。そこで最も優先すべき課題は教育であり、社会や家庭の教育において仏教者が教育に関わり、その一環として医療への関わりがあるならば、大いなる光明となるであろう。

アーンユス連続講座

仏教国際協力ネットワーク、アーンユス（A Y U S）では、海外生活者のための仏教教養講座を五回連続で開催する。

会場はいずれも東京・芝・天光院シュリーホール（都営三田線御成門下車）、参加費は一回五〇〇円、五回通し券二〇〇〇円。

・五月十二日（土）午後二時～五時

第一部シンポジウム（入場無料）

私は「無宗教」？

～日本人の宗教観を省みる～

・一回目 五月十七日（木）午後七時

たましいはあの世へ行くか

・二回目 五月三十一日（木）午後七時

世直し思想としての仏教～仏教と国家

・三回目 六月十四日（木）午後七時

「悟り」へのご案内

～いのちと向き合う生活実践

・四回目 六月二十八日（木）午後七時

マンダラからオウムまで

～仏教の宇宙観・生命観

・五回目 七月十九日（木）午後七時

日本仏教は「仏教」か？ ～仏教概論

申し込み・問い合わせ

アーンユス仏教国際協力ネットワーク

〒一三五〇〇〇二四

東京都江東区清澄三―四―二十二
電話〇三―三八二〇―五八三一

事務局録事

―四月―

一日 増上寺落慶式出席

三日 萬福寺開山式出席

四日 局内会議

十日 ルンビニー事務連絡会議

十一日 同宗連創立二十周年式典出席

十二日 同宗連総会出席

法律相談室

十四日 長野県仏教徒大会出席

十六日 ルンビニー事務連絡会議

十八日 同和委員会

日宗連監査会

十九日 戒名(法名)リーフレット作成委員会

日宗連理事會

二十四日 国際委員会

二十六日 局内会議

法律相談室

二十七日 ルンビニー委員会

哀悼

新藤晋海師

三月十七日遷化 七十四歳

華嚴宗管長

第三十八回全日本仏教徒会議

新潟大会

・十月十日（水）午後四時～八時

於 長岡グランドホテル

・分科会（いのち、教育、環境）

・交流親睦の夕べ：会費五〇〇円

・十月十一日（木）午後一時～四時

於 長岡市立劇場

・記念式典

・記念講演

講師 豊原大成 師

（浄土真宗本願寺派前総長）

参加料：一五〇〇円（記念品代含む）

申込期日 七月十日（火）まで

申込方法 各県仏教会または所属団体ごとに

参加者をまとめて申込み

所属団体のない方は個々に申込み

申込み・問い合わせ

全日本仏教徒会議新潟大会事務局

〒九四〇一〇八八三

長岡市小曾根町二一九三 延命寺内

電話〇二五八一―二四一五二九六

FAX〇二五八一―二四一五六四四

〒一〇五―一〇〇二 東京都港区芝公園四―七―四

電話〇三―三四三三七九二七五